

## 障害者虐待，職場で 970 人が被害 賃金減額など最多（厚生労働省調査）

厚生労働省（厚労省）は 7 月 27 日，全国の職場で賃金減額や暴行などの虐待被害に遭った障害者が 2015 年度は，970 人に上ったと発表した。集計方法を変更したため，被害者数は前年度の約 2 倍に膨らんだ。

内訳は賃金減額など「経済的虐待」が 855 人と最も多く，暴言など「心理的虐待」が 75 人，暴行など「身体的虐待」が 73 人と続いた。1 人で複数の種類の虐待を受けたケースもあった。

具体的には「賃金が地域の最低賃金を 300 円下

回っていた」，「『お前がいなくなれば楽になる』と暴言を吐かれた」，「モップの柄で頭をたたかれ，頬を平手打ちされた」といった被害があった。

厚労省は，全国の労働局や労働基準監督署などに寄せられた職場における障害者の虐待情報を基に調査。全国 507 事業所で 970 人に虐待が行われていたと断定した。障害者福祉施設での虐待はこの調査対象には含まれていない。

（福祉新聞・第 2774 号 2016 年 8 月 8 日）

## 「ノーマライゼーション 障害者の福祉」8 月号・特集目次

### ＜特集＞障害児支援の動向と課題

障害児支援の動向（小島裕司）

今後の障害児支援の在り方インクルーシブな社会を目指して（柏女霊峰）

子どもにとっての放課後の意義から事業のあり方を考える（中村尚子）

放課後等デイサービスの現状と課題（中嶋麻衣）

横浜市南部地域療育センターにおける幼稚園・保育所への巡回訪問の実際と今後の課題（前島弘）

世田谷区における障害児等保育についての検討と今後の取り組み（世田谷区子ども・若者部保育課）

### ＜支援を受ける立場から＞

母親の就労と子どもの居場所（辻 京子）

「障害があっても地域で暮らす」ことと放課後等デイサービス（森 佳代子）

親たちの「おしゃべり会」から見えること（福井公子）